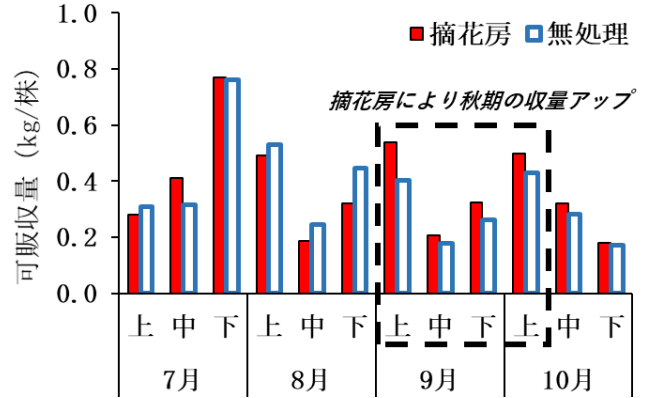
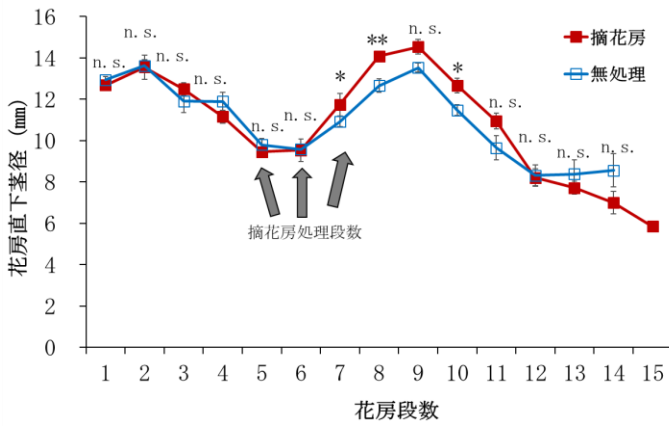


# 夏秋雨除けトマトの 秋期増収技術を開発しました



摘花房処理の様子



## 開発のねらい

県中北部の夏秋雨除けトマト産地では、高温等の影響で夏期の草勢が低下し、高単価の秋期（9～10月）の収量が低下することがあります。そこで、秋期まで草勢を維持し、秋期収量を増加できる着果管理方法を開発しました。

## 新技術の概要

- 7月中旬に開花した花房1段分を摘除する摘花房処理を行うことで、処理後の茎径が無処理区と比べて太くなり、草勢が向上します（左図）。
- 摘花房処理を行うことで、8月の収量は一旦減少するものの、高単価の秋期の収量を増加させることができます（右図）。

## 活用場面

本技術は、岡山県中北部の夏秋雨除けトマトに活用でき、単価の高い秋期の収量が増加するため、農家所得の向上、8月の収穫労働の軽減が期待できます。